資料１

和光市次世代育成支援行動計画
子どもと大人の笑顔かがやくまち・和光

関連施策の推進状況

～　平成２０年度の主な取組実績と今後の取組予定　～

和光市保健福祉部こども福祉課

平成２１年７月

目　　次

Ⅰ　目標値設定施策の進捗状況（総括表）及び各事業主管課による自己評価（総括表）
・・・・・・・・・・Ｐ．２

Ⅱ　目標値設定施策の進捗状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．３

Ⅲ　重点的に取り組む施策の進捗状況
～平成２０年度の主な取組実績及び今後の取組予定～
１　次代の親の育成
・　“子育ては楽しい”を積極的に広報・啓発します　・・・・・・・・・・・Ｐ．６
・　子ども・子育てに関わる中高生ボランティアを育成し、活動機会の提供など活動を支援します。　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ．９
・　子どもの職業意識を育成するために、小中学生の職業学習・体験を充実します。　・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．10
２　地域に中高生の居場所づくり
・　福祉ボランティア活動、地域コミュニティ活動などへ中高生等の参画を促進します。　・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ．11
・　中高生等が利用しやすいよう公共施設の有効利用・活用できるよう努めます。
・　中高生等の居場所、活動拠点の整備を目指します。
３　子育てコミュニティの活性化
・　地域で同世代・異世代が交流する機会を拡充します。　・・・・・・　・Ｐ．12
・　子ども・子育てにかかわる地域活動へ、父親など男性の参加を促進します。
・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．14
・　ファミリー・サポート・センターの活動を充実します。　・・・・・・・Ｐ．15
４　男性も含めた働き方の見直し
・　男性の育児休業取得者の交流機会の提供など“パパネット”の構築を支援します。　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．18
・　次世代育成支援に取り組む市内企業や企業内グループを紹介・ＰＲなど、活動を支援します。　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．19
５　総合施設の整備
・　（仮）こども総合施設を整備します。　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．20

Ⅳ　各事業主管課による自己評価一覧　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．21

Ⅴ　市民アンケート調査結果から
～後期計画策定のためのアンケート調査結果からみた前期計画の取組評価～
・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．26

Ⅰ　目標値設定施策の進捗状況（総括表）及び各事業主管課による自己評価（総括表）

目標値設定施策の進捗状況

達成率　80%以上	22 施策	78.6 %
達成率　50%以上　80%未満	2 施策	7.1 %
達成率　50%未満	4 施策	14.3 %
計	28 施策	100.0 %

（平成２０年度末実績値／目標値）

各事業主管課による自己評価

評価	１７年度	１８年度	１９年度	２０年度
A	107	105	125	132
B	77	86	80	92
C	28	32	26	20
D	18	16	18	9
事業終了			1	1
評価不適				3
計	230	239	250	257

※よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

※ 評価不適とは、事業の実施主体が NPO や企業であることから、市が評価することは適さない事業

II　和光市次世代育成支援行動計画目標値設定施策の進捗状況

１．子どもの自立支援　　（）進捗率：20 年度末実績（b）／目標値（c）

確認時期 数値目標	スタート時 （a） （16 年度末）	17 年度末 実績 （b）	18 年度末 実績 （b）	１９年度末 実績 （b）	２０年度末 実績 （b）	行動計画 最終目標 （c）
中高生等の乳幼児ふれあい体験の充実	５回	１回	１回	２回	５回 （50%）	10 回
親子による交流・自然体験学習の開催	１回	６回	５回	４回	９回 （４50%）	２回
放課後、週末、長期休業日におけるこどもを核とした様々な活動の機会と場の拡大	５０回	１７３回	２５４回	２０１回	152 回 （253.3%）	60 回
スクールカウンセラーの配置	２校	２校	３校	３校	３校 （100%）	３校

２．子育てを応援する社会づくり　　（）進捗率：20 年度末実績（b）／目標値（c）

確認時期 数値目標	スタート時 （a） （16 年度末）	17 年度末 実績	18 年度末 実績	１９年度末 実績	２０年度末 実績 （b）	行動計画 最終目標 （c）
ショートステイ事業	０か所	０か所	０か所	０か所	０か所 （0%）	１か所
ファミリー・サポート・センター事業	１か所	１か所	１か所	１か所	１か所 （100%）	１か所
地域子育て支援センター事業	５か所	５か所	５か所	５か所	５か所 （100%）	５か所
つどいの広場事業	１か所	１か所	１か所	１か所	１か所 （33%）	３か所

３．母子保健・医療サービスの充実　　（）進捗率：20 年度末実績（b）／目標値（c）

確認時期 数値目標	スタート時 （a） （16 年度末）	17 年度末 実績	18 年度末 実績	１９年度末 実績	２０年度末 実績 （b）	行動計画 最終目標 （c）
乳幼児検診の充実 (受診率) ４か月	９５．７％	９６．６％	９６．４％	９７．０％	９８．５％ (103.6%)	95%
10 か月	９３．０％	９６．７％	９３．５％	９５．９％	９７．６％ (102.7%)	95%
１歳６か月	９２．９％	９４．７％	９３．９％	９５．１％	９４．０％ (104.4%)	90%
２歳	９０．３％	９１．６％	９１．９％	９３．４％	９４．９％ (105.4%)	90%
３歳	８５．６％	８９．６％	９０．８％	８９．５％	９２．６％ (102.9%)	90%
地域における食育に関する学習の機会の充実	４回	介護予防モデル事業終了(平成１６年度)				４回
学校と保健センターとの連携による思春期教育の開催	０回	０回	０回	０回	０回 （0%）	１回
外部機関と連携した薬物乱用防止教室を実施している小学校・中学校・高校数	小学校３校 中学校３校 高校　２校	８校 ３校 ２校	８校 ３校 ２校	８校 ３校 ２校	８校 (100%) ３校 (100%) ２校 (100%)	８校 ３校 ２校
３歳児健診でのむし歯保有率 （一人当たり保有数）	０．７３本	０．８７本	０．７９本	０．７５本	0.63 本 (95.2%)	0.6 本

４．子ども家庭への支援の充実　　（）進捗率：20 年度末実績（b）／目標値（c）

確認時期 数値目標	スタート時 （a） （16 年度末）	17 年度末 実績	18 年度末 実績	１９年度末 実績	２０年度末 実績 （b）	行動計画 最終目標 （ｃ）
通常保育事業 （受入児童総数）	８１５人	８２４人	８５７人	９２４人	９８４人 (94.2%)	1,045 人
0 歳児受入児童数	７０人	６３人	７６人	８０人	９０人 (93.8%)	96 人
1･2 歳児受入児童数	２６１人	２４９人	２８０人	２９５人	３３３人 (98.2%)	339 人
延長保育事業	７か所	７か所	９か所	１０か所	１１か所 (100%)	１１か所
休日保育事業	６３人	２０人	２０人	２０人	２０人 (100%)	20 人
放課後児童健全育成事業	４５８人	５２５人	５３０人	６０５人	５９０人 (100.9%)	585 人
乳幼児健康支援一時預かり事業(病後児保育（施設型）)	４人	４人	４人	４人	４人 （40.0%）	10 人
一時保育事業 （一時・特定保育事業）	４９人	４９人	４９人	４９人	４９人 （61.3%）	80 人
家庭教育学級･講座の開催	１２回	１１回	１１回	１１回	11 回 (91.7%)	12 回
読み聞かせ活動の充実	５３件	50 件	４１件	５６件	56 件 (93.3%)	60 件

５．子ども・子育てに配慮したまち

確認時期 数値目標	スタート時 （a） （16 年度末）	17 年度末 実績	18 年度末 実績	１９年度末 実績	２０年度末 実績（b）	行動計画 最終目標 （ｃ）

目標値設定施策なし

III　重点的に取り組む施策の進捗状況

1　次代の親の育成

【施策】　・　“子育ては楽しい”を積極的に広報・啓発します。

【事業】　①青少年福祉ボランティア活動

青少年指導者研修会の充実など、指導者の育成を図るとともに、社会福祉協議会等と連携し青少年ボランティアの受け入れ体制づくり、青少年組織の育成・支援づくりなど、ボランティア活動を促進し、福祉の心を育てます。

【平成２０年度の主な取組】

①青少年福祉ボランティア活動

○青少年相談員の育成【スポーツ青少年課】

わくわくオリエンテーリング、アイスクリーム作り、なわとび大会、ジュニアリーダー研修会ほか青少年相談員のボランティア活動を実施した。

	事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
1	わくわくオリエンテ-リングⅠ	市内の子どもと、交流を図る	5月24日	小学生 9名	樹林公園
2	アイスクリーム作り	市内の子どもと、交流を図る	7月13日	小学生 15名	中央公民館
3	なわとび大会	学年別に前とび・後とびなどを制限時間内にとび、回数を競った	11月30日	小学校 1～6年生 ９８名	広沢小校庭
4	空と大地の冬あそびツアー	自然の中で星などを観察した	2月 7日・8日	小学校 4年生以上 １５名	山梨県八ヶ岳少年自然の家
5	研修会及び青年対象事業	相談員の資質向上及び新相談員の募集を目的に実施	3月29日	青少年相談員	水上宝台樹スキー場

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
B	B	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

指導者の育成が課題である。

○ 社会福祉協議会での取り組み（抜粋）【和光市社会福祉協議会】

	事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
		施設や地域等での		中学生８０名	

※　放課後子ども教室【主管課：生涯学習課】

１　事業の目的

安全で健やかな子どもの活動拠点（居場所づくり）を地域の方々の参画を得

ハンドボール教室

福祉体験

【施策】　・　子ども・子育てに関わる中高生ボランティアを育成し、活動機会の提供など活動を支援します。

【事業】　②　子ども・子育てにかかわる中高生ボランティアの育成

子ども・子育てに関わる中高生ボランティアを育成し、保育園や保育クラブなどで活動機会を提供するなど、活動を支援します。

【平成２０年度の主な取組】

②　子ども・子育てにかかわる中高生ボランティアの育成【こども福祉課】

○中高生ボランティアの育成

総合児童センター「赤ちゃんのふれあい」や体験ボランティアとして「夏休み中高生ボランティア」のほか、子育て支援センターで実施した。

事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
夏の体験学習 **赤ちゃんのふれあい**	中高生と赤ちゃんのふれあい事業 夏休み体験事業の一環として、学校をとおして参加者をつのった	8月22日 10：30～	乳児親子と小中学生 延23人	総合児童センター
中高生と赤ちゃんふれあい交流会「赤ちゃんと遊ぼう」	中高生が赤ちゃんや母親とふれあうことで子育ての予備体験をする	12月17日 14:00～	幼児親子 延８４名	総合児童センター
プレパパ・プレママ体験	和光三中の家庭科の授業。妊婦体験・沐浴体験	9月29日 10月6日	第３中３年生とｾﾝﾀｰ利用者 167名	みなみ子育て支援センター
プレパパ・プレママ体験	和光三中の総合的な学習の授業。妊婦体験・沐浴体験	12月2日	第３中１年生とｾﾝﾀｰ利用者 61名	みなみ子育て支援センター

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
B	B	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

事業の実施場所を増やすことや、さらに事業内容を充実させる必要がある。

【施策】・　**子どもの職業意識を育成するために、小中学生の職業学習・体験を充実します。**

【事業】**③　職業学習・体験の充実**

子どもの職業意識を育成するために、小中学生の職業学習・体験を充実し

【平成２０年度の主な取組】

③　職業学習・体験の充実【学校教育課】

○ 小中学生の職業体験

中学校３校において、市内企業等での職業体験を実施した。

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
評価せず	評価せず	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

職業体験の様子

【今後の課題】

全ての生徒が職業体験を実施できるよう、市内企業等への協力要請や事業実施に当たっては、マナーを守ることを徹底させる必要がある。

2　地域に中高生の居場所づくり

【施策】・　**福祉ボランティア活動、地域コミュニティ活動などへ中高生等の参画を促進します。**

【事業】①　**青少年福祉ボランティア活動**

青少年指導者研修会の充実など、指導者の育成を図るとともに、社会福祉協議会等と連携し青少年ボランティアの受け入れ体制づくり、青少年組織の育成・支援づくりなど、ボランティア活動を促進し、福祉の心を育てます。

【平成２０年度の主な取組】

① 青少年福祉ボランティア活動

※①次代の親の育成⇒1『“子育ては楽しい”を積極的に広報・啓発します」と同様の事業のため、【主な取組】【今後の課題】等は、前述（P.5）のとおり。

【施策】**2　中高生等が利用しやすいよう公共施設の有効利用・活用できるよう努めます。**

3　中高生等の居場所、活動拠点の整備を目指します。

【事業】②　**中高生の居場所づくり**

青少年活動の活動拠点として、中高生の居場所づくりを進めます。また、中高生等が利用しやすいよう公共施設の有効利用・活用できるよう努めます。

【平成２０年度の主な取組】

②　中高生の居場所づくり【こども福祉課】

総合児童センターを夜間開館し、中高生の居場所として活用した。

事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
中高生夜間事業	体育遊戯室でのバスケット、卓球や音楽演奏等に活用してもらう	毎週金曜日 17:00～	中学生・高校生 延 558 人	総合児童センター

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
評価せず	評価せず	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

開館時間や実施場所について、利用者の意見を取り入れる仕組みづくりが必要である。

3　子育てコミュニティの活性化

【施策】１　地域で同世代・異世代が交流する機会を拡充します。

【事業】①　多様な交流活動
地域交流や世代間交流など多様な交流の場や機会を充実し児童・生徒の交流活動を促進します。

【平成２０年度の主な取組】

１　多様な交流活動

●　子育て支援センター・児童センター（館）での取組【こども福祉課】

事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
ふれあいサロン	社会福祉協議会共催。地域のお年寄りと支援センター利用者が交流。	7 月、10 月、12 月、3 月	地域の高齢者未就学児と保護者 213 人	みなみ子育て支援センター
ふれあいサロン	お年寄りとの交流の場	5 月 19 日・7月２８日	未就学児の親子大人３３人子ども３３人	しらこ子育て支援センター

その他、児童センター（館）４施設で、計２０回実施　延べ４５５人参加

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
C	C	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

住民と協力及び連携体制が確立していない地域があり、事業実施の効果が限定的となることがある。

●　地域住民との交流【学校教育課】

学校行事等を中心として、地域人材の活用を行うとともに、地域住民との交流を行った。

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
C	B	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

学校応援団の組織体制を確立することが課題である。

●　小学校の余裕教室及び地域密着型サービス拠点での交流【長寿あんしん課】

事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
うぇるかむ	介護予防（閉じこもり予防）及び地域交流・	通年	地域住民・児童等計 61 回	第四小、本町小

【施策】　2　子ども・子育てにかかわる地域活動へ、父親など男性の参加を促進します。

【事業】　②　地域交流機会の拡充

地域で同世代・異世代が交流する機会を拡充します。子ども・子育てに関わる地域活動へ、父親など男性の参加を促進します。

【平成２０年度の主な取組】

②　地域交流機会の拡充

○ 子育て支援センターでの取組【こども福祉課】

地域での子育て活動の推進のため、父親の参加を促進する事業を実施した。

事　業　名	内　　容	日　時	対象・人数	会　場
春の初企画！「めおとワーク」	夫婦でアイスブレイク、グループでＫＪ法、発表。	４月 26 日	未就学児と保護者 11 名	みなみ子育て支援センター
あつまれスペシャルカプラであそぼう！	木製ブロックのカプラを通じて創造力や集中力を高める。	８月 30 日	未就学児と保護者 77 名	みなみ子育て支援センター
しらこ♪Avenue	お父さんによるギターの生演奏	７月１２日	未就学児の親子 大人２４人 子ども３５人	しらこ子育て支援センター
パパと遊ぼう	パパとのふれあい	８月２日	未就学児の親子 大人１０人 子ども１４人	しらこ子育て支援センター

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
評価せず	評価せず	B	B

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

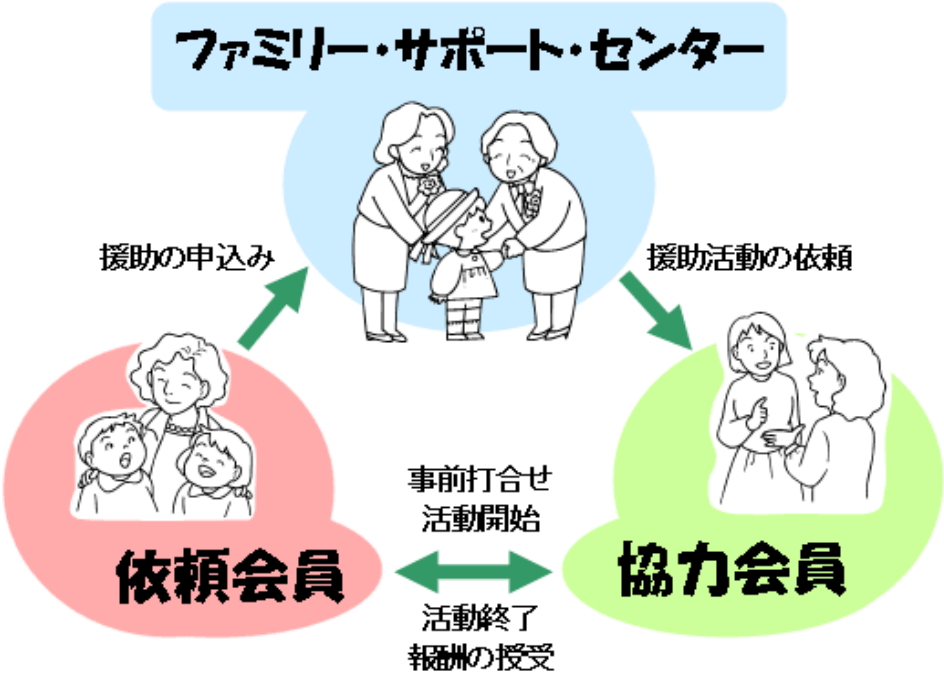
男性の参加は、時間的な制約もあり、実現が困難である。継続的に参加を促す試みが必要である。

【施策】３　ファミリー・サポート・センター*の活動を充実します。

ファミリー・サポート・センター：育児の援助を受けたい人と育児の援助を提供できる人が会員になって、地域に密着した助け合いのシステム

【事業】　③　ファミリー・サポート・センター事業の充実

女性の社会参加が進む中、地域で子育てをする環境を整備することを目的に地域の子育て支援組織としてファミリー・サポート・センター*の運営を充実します。産前産後サポート事業を平成 15 年 10 月から開始。児童夜間養育事業を平成 16 年 10 月から開始（原則 3 泊まで）



【平成２０年度の主な取組】

③　ファミリー・サポート・センター事業の充実

○　ファミリー・サポート・センター事業【こども福祉課】

会員向けの講座の参加を義務付け、登録会員としての知識を深めている。

対象	生後 43 日から 12 歳までのお子さん
報酬	▼平日午前 7 時～午後 7 時：360 円/30 分 ▼平日の上記以外の時間及び土、日、祝日：420 円/30 分 ▼年末年始：450 円/30 分

ファミリー・サポート・センター事業会員数・活動件数の推移（各年度３月末）

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
依頼会員	4	149	246	350	427	514	585	647	741
協力会員	1	46	60	65	71	79	93	95	112
両方会員	8	50	75	75	89	93	110	121	123
合　計	13	245	381	490	587	686	788	863	976
活動件数	2	1994	2777	3718	2848	4167	6415	5134	5421

依頼の多い活動内容（２０年度集計）

1	保育園・幼稚園の送り	1159件	4	保育クラブ終了後の預かり	436件
2	保育園・幼稚園の迎え	1115件	5	保育園・幼稚園の帰宅後の預かり	409件
3	保育クラブの迎え	890件	6	子どもの習い事等の場合の援助	272件

○産前産後サポート事業【こども福祉課】

母親が妊娠中や産後を安心して過ごせるよう、家事や育児を地域でサポートする。

対象	母子手帳を交付後から産後42日までの人
内容	▼家事援助/ 料理・買い物・洗濯・掃除・その他日常的な家事 ▼育児援助/ 授乳・新生児の身の回りの世話・沐浴の介助・上の子の世話
報酬	▼平日午前8時～午後6時：840円/時間 ▼平日の上記以外の時間及び土、日、祝日：960円/時間 ▼年末年始：1,020円/時間

会員数・援助日数の推移（基準：各年度３月末）

	15年	16年	17年	18年	19年	20年
協力会員	24	38	31	48	45	54
依頼会員入会者	17	22	21	29	26	43
利用者数	1	13	13	16	22	22
援助日数	5	112	180	147	163	227

○夜間養育事業【こども福祉課】

保護者の人が出張や夜勤、入院等のため、お子さんと夜の間一緒に過ごすことができない時、地域の家庭でお子さんを預かり、サポートします。

対象	3 歳から 12 歳まで
内容	宿泊の援助(夕食・朝食、入浴等を含む)、保育施設等への送迎
援助期間	原則として 3 泊まで
援助時間	午後 5 時から翌日の午前 9 時までの必要な時間
報酬	▼平日：1 泊 8,000 円 ▼土、日、祝日：1 泊 9,000 円 ▼年末年始：1 泊 10,000 円

会員数・援助日数の推移（基準：各年度 3 月末）

	17 年	18 年	19 年	20 年
協力会員	12	11	17	21
依頼会員	2	3	6	8
利用者数	2	0	4	4
援助日数（泊）	2	0	10	5

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
A	A	A	A

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

効果的に事業を実施するため、協力会員の募集については、さらに周知する必要がある。また、現在のサポート内容が適当であるか、検討・評価も必要。

4　男性も含めた働き方の見直し

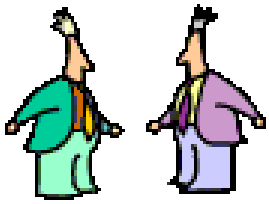
【施策】１　男性の育児休業取得者の交流機会の提供など、“ パパネット ” の構築を支援します。

【事業】①　パパネットの構築
男性の育児休業取得者の交流機会の提供など、“ パパネット ” の構築を支援します。

【平成２０年度の主な取組】

① パパネットの構築

○ 子育て中の父親のネットワークづくり【こども福祉課】
交流機会の提供方法等の検討を行った。



【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
D	D	C	C

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】
既存組織のネットワーク化による実施が有効である。また、既存組織の情報収集が必要である。

【施策】２　次世代育成支援に取り組む市内企業や企業内グループを紹介・ＰＲなど、活動を支援します。

【事業】②　子育て応援企業の指定、広報

【平成２０年度の主な取組】

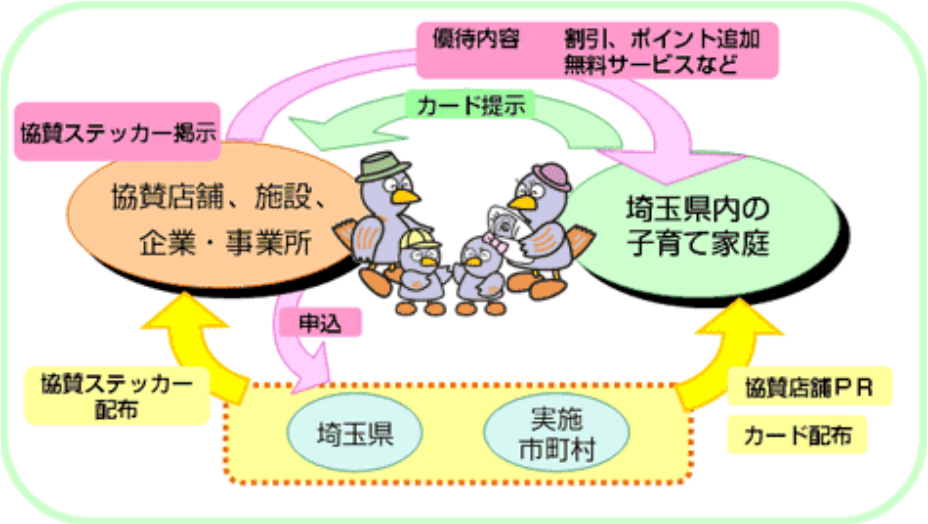
②　子育て応援企業の指定、広報

○ パパ・ママ子育て応援ショップの啓発【こども福祉課】

「パパ・ママ子育て応援ショップ」とは、中学３年生までの子ども又は妊娠中の人がいる家庭に配布される「パパ・ママ応援ショップ優待カード」を協賛店舗で提示すると、割引などのサービスが受けられる制度であり、平成１９年５月から埼玉県が実施している。市は利用促進と啓発活動を行った。

平成２１年５月２９日現在　協賛店舗・施設数　８,９１１か所（県全体）

うち　５９か所（和光市）



【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
評価せず	評価せず	A	A

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

次世代後期計画策定にためのアンケート調査結果によると、事業の認知度は高いものの（就学前保護者 85.7％・小学生保護者 78.6％）、利用度が低く（就学前 28.0％・小学生 22.9％）、サービスの充実（多様化）が必要である。

５　総合施設の整備

【施策】　１　**（仮）こども総合施設*を整備します。**

【事業】　①　**（仮）こども総合施設の整備**

幼保一体型の保育、ショートステイやトワイライトステイといった先進的な機能を持つ（仮）こども総合施設の整備を進めます。

※　こども総合施設は、保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、教育・保育を一体的に行う事業（認定こども園の事業）や家庭における児童の養育がさまざまな事情で養育困難になった場合に、児童を一時的に宿泊や夜間を伴って預かる事業（ショートステイ・トワイライトステイ）といった先進的な事業を行う施設のこと。

【平成２０年度の主な取組】

①（仮）こども総合施設の整備

○　（仮）こども総合施設の整備検討【こども福祉課】

こども総合施設の事業の一つとして、認定こども園整備に係る説明会に３回参加する等、整備に向けての情報収集を行った。

【自己評価の推移】

平成１７年度	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度
D	C	C	C

よく取組めた（A）・ほぼ取組めた（B）・一部取組めた（C）・全く取組めていない（D）

【今後の課題】

平成１８年度に法令化された認定こども園と次世代育成支援行動計画上のこども綜合施設との事業内容の見直しが必要である。

Ⅳ　市民アンケート調査結果から

～後期計画策定のためのアンケート調査結果からみた前期計画の取組評価～

1　調査概要

(1)　調査の目的

「和光市次世代育成支援対策後期行動計画」（平成 22～26 年度）の策定の基礎資料とするために、生活状況や市の次世代育成支援に対する意見・意向を把握するために実施した。

(2)　調査種類・調査対象

① 就学前児童保護者調査

市内居住の０～５歳（平成20年４月１日現在）の児童の保護者（無作為抽出）

② 小学生保護者調査

市内居住の小学１～６年生児童の保護者（無作為抽出）

(3) 調査時期・方法

平成21年２～３月　郵送配布・郵送回収

(4)　回収結果

調査種類	発送数	有効回答数	有効回答率
就学前児童保護者調査	1,500件	622 件	41.5%
小学生保護者調査	1,000件	407 件	40.7%
合　　計	2,500件	1,029件	41.2%

2　調査結果

・　**和光市での子育て**

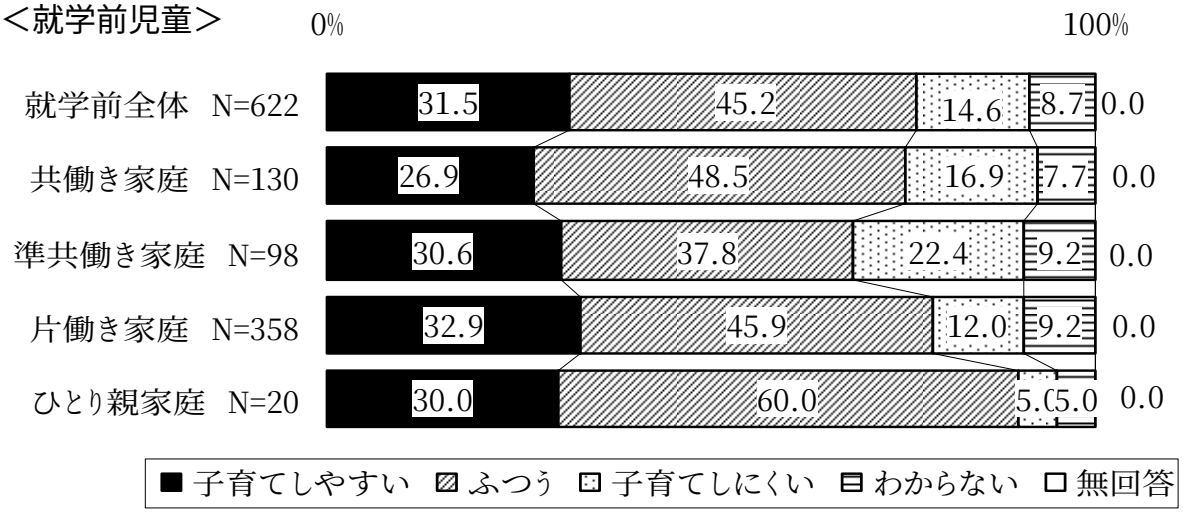
和光市について「子育てしやすい」は就学前で 31.5%、小学生で 24.1%。両親の就労型別にみると、就学前・小学生ともに「子育てしやすい」は「片働き家庭」で高い傾向。「子育てしにくい」は就学前の「準共働き家庭」で２割を超えている。前回調査（平成 15 年度に前期計画策定のために実施した調査）と比べると、「子育てしやすい」と「子育てしにくい」がともに増え、評価が分かれる傾向がうかがえる。

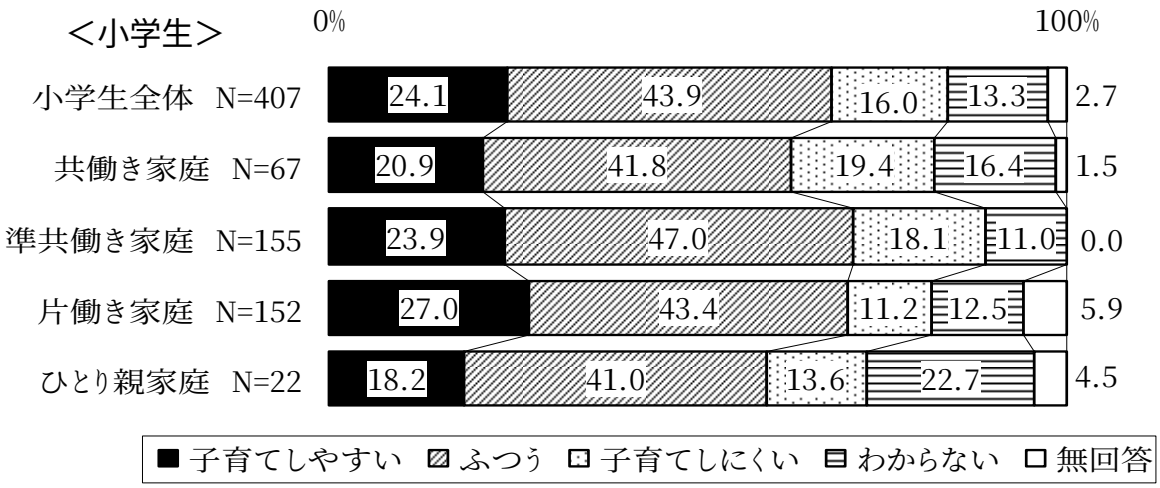
【目標設定指標】**和光市は子育てしやすいところ若しくは普通と回答した人の割合**

対象	今回調査（平成２１年）	前回調査（平成１５年）	前回対比	目標指標	目標対比
就学前保護者	76.7%	73.8%	＋2.9%	80.0%	-3.3%
小学生保護者	67.0%（1年～6年）	73.7%（1年～4年）	－6.7%	80.0%	-13.0%

● アンケート調査結果

和光市は子育てしやすいところだと思うか





和光市は子育てしやすいところだと思うか（前回調査との比較）

和光市は子育てしやすいか	就学前保護者		小学生保護者	
	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査
子育てしやすい	31.5	28.7	23.5	21.3
ふつう	45.2	45.1	43.5	52.4
子育てしにくい	14.6	13.5	16.8	13.0
わからない	8.7	10.9	13.8	10.8
無回答	0.0	1.8	2.4	2.5
（回答者数）	(622)	(770)	(327)	(446)

注：「小学生保護者」は「１～４年生」で比較している

・ **子育ての感情【参考】**

子育てを「楽しいと感じることの方が多い」は就学前で 69.8％、小学生で66.5％と、７割近くを占めている。

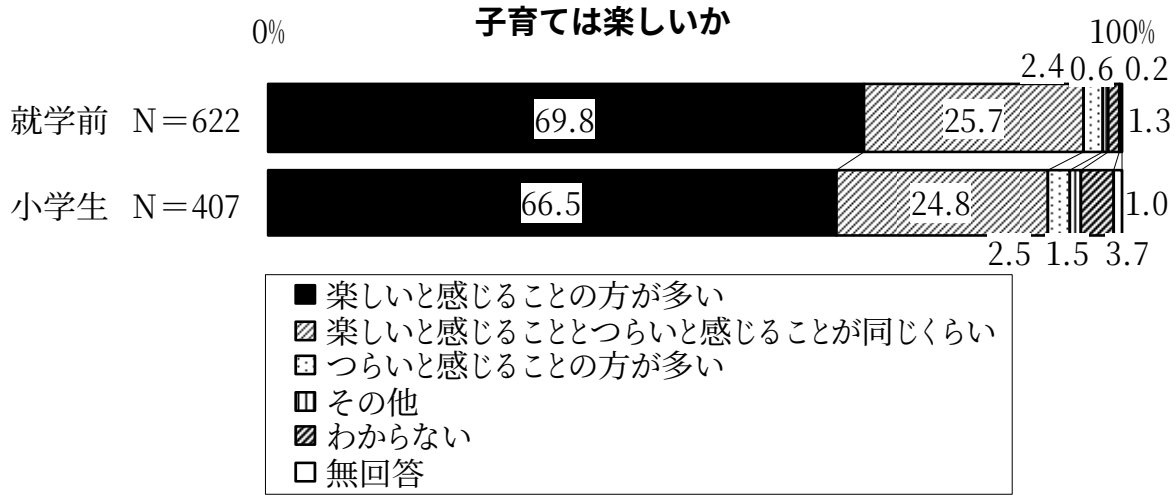
【目標設定指標】**子どもがいると、毎日の生活が楽しいと感じる親の割合**

対象	今回調査（平成２１年）	前回調査（平成１５年）	前回対比	目標指標	目標対比
就学前保護者	69.8％	50.3％	＋19.5％	75.0％	-5.2％
小学生保護者	66.5％（1年～6年）	54.5％（1年～4年）	＋12.0.％	75.0％	-8.5％

前回調査：「お子さんを育てている、あなたの今の気持ちはどうですか。」の問に対し、「子どもがいると、毎日の生活が楽しい」と回答した割合

今回調査：「あなたは、自分にとって子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか。それともつらいと感じることが多いと思いますか。」の問に対し、「楽しいと感じることの方が多い」と回答した割合

● アンケート調査結果



・ **父親は母親の相談相手、精神的な支えになっているか**

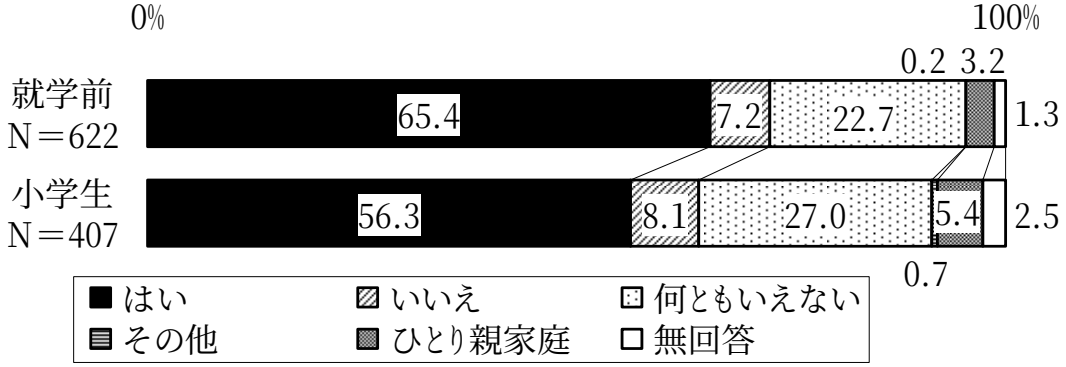
父親は母親の相談相手、精神的な支えかについて、「はい」は就学前で 65.4%、小学生で 56.3%と半数を超えている。前回調査と比べると、就学前、小学生ともに「いいえ」が増える傾向。

【目標設定指標】　**お父さんが母親の相談相手、精神的な支えになっているか**

対象	今回調査（平成２１年）	前回調査（平成１５年）	前回対比	目標指標	目標対比
就学前保護者	65.4%	64.2%	＋1.2%	75.0%	－9.6%
小学生保護者	56.3%（1年～6年）	62.7%（1年～4年）	－6.4%	75.0%	－18.7%

● アンケート調査結果

父親は母親の相談相手、精神的な支えか



父親は母親の相談相手、精神的な支えか（前回調査との比較）

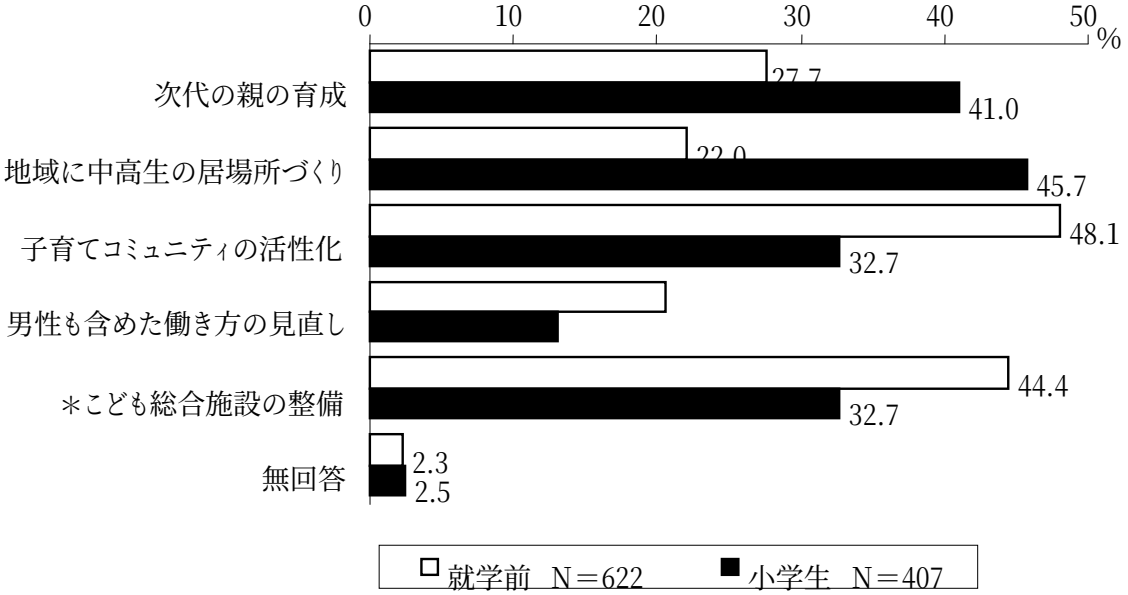
父親は母親の相談相手等か	就学前保護者		小学生保護者	
	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査
はい	65.4	64.2	56.3	62.7
いいえ	7.2	5.5	8.6	7.2
何ともいえない	22.7	28.8	27.2	24.7
その他	0.2	1.2	0.9	3.6
ひとり親家庭	3.2	－	4.9	－
無回答	1.3	0.3	2.1	1.8
（回答者数）	(622)	(770)	(327)	(446)

注：「小学生保護者」は「1～4年生」で比較している

・　**今後、優先的に解決すべき課題**

就学前では「子育てコミュニティの活性化」48.1％、「総合施設の整備」44.4％、小学生では「地域に中高生の居場所づくり」45.7％、「次代の親の育成」41.0％が高くなっている。

今後、優先的に解決すべき課題（○は２つまで）



＊こども総合施設

保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、教育・保育を一体的に行う事業（認定こども園の事業）や家庭における児童の養育がさまざまな事情で養育困難になった場合に、児童を一時的に宿泊や夜間を伴って預かる事業（ショートステイ・トワイライトステイ）といった先進的な事業を行う施設のこと。